

鹿児島県総合教育センター
平成26年度長期研修研究報告書

研究主題

情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる児童の育成
—国語科学習指導における新聞の活用を通して—

曾於市立岩南小学校
教諭 久保 昌意

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	
1	研究主題に関する基本的な考え方	
(1)	研究主題に関する構想	2
(2)	「情報を読み解く」とは	3
(3)	「自分の考えを明確にする」とは	3
(4)	「発信する」とは	3
(5)	国語科学習指導における新聞の活用とは	4
2	研究主題に関する分析と考察	
(1)	児童の意識調査等を基にした指導上の課題	4
(2)	教師の意識調査を基にした指導上の課題	5
(3)	調査結果から考えられる指導の方向性	5
3	情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる国語科学習指導の構想	
(1)	学習過程に沿った手立ての工夫	5
(2)	新聞を活用した単元を貫く言語活動の工夫	6
(3)	「判断基準」による評価の工夫	6
(4)	語句を習得し活用するための工夫	7
4	検証授業Ⅰにおける検証	
(1)	検証授業Ⅰの概要	7
(2)	検証授業Ⅰのねらい	8
(3)	検証授業Ⅰの新聞を活用した単元を貫く言語活動の設定について	8
(4)	検証授業Ⅰの実際	9
(5)	本単元における「思考・判断・表現」の評価	13
(6)	検証授業Ⅰの成果と課題	15
(7)	検証授業Ⅰの課題を踏まえた指導法の改善	15
5	検証授業Ⅱにおける検証	
(1)	検証授業Ⅱの概要	15
(2)	検証授業Ⅱのねらい	16
(3)	検証授業Ⅱの新聞を活用した単元を貫く言語活動の設定について	16
(4)	検証授業Ⅱの実際	17
(5)	本単元における「思考・判断・表現」の評価	23
(6)	検証授業Ⅱの成果と課題	26
(7)	児童の表現の変容	27
(8)	検証授業後、学んだことを日常生活で生かしている様子	28
IV	研究のまとめ	
1	研究の成果	28
2	今後の課題	28
※	引用・参考文献	

I 研究主題設定の理由

平成20年の中央教育審議会答申においては、国際的な学力調査の結果から、児童生徒の読解力において低下傾向が見られ、具体的には、文章や資料の解釈、熟考・評価や、論述形式の設問に対して課題があるとされている。この課題を踏まえ、国語科においては、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きて働き、各教科の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることを重点として内容の改善を図ることが求められている。

このうち、特に実生活で生きて働く国語の能力は、「情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信する」ことによって育成されるものと考えられる。なぜなら、情報を正確に理解する、推論・比較して意味を理解する、自らの知識や経験に位置付けて理解・評価するといった読解力を育成するためには、社会的事象や身の回りの出来事など、実生活に関する様々な情報を、言語を通して正しく理解し、論理的に思考して表現することが求められているからである。

このことについて、本校においては、曾於市教育委員会指定「ICT等教育」研究指定校として実践に取り組み、国語科では、各領域で新聞を活用し児童の表現力を向上させるための手立てについて研究を重ねてきた。その結果、児童にとって新聞がより身近なものになったり、新聞記事に対する簡単な自分の考えをもつことができたりするなどの成果が見られた。しかし、物事を筋道立てて考え、情報の確かさを吟味し、身近な情報を活用するなどの力、それらを支える語句の習得、活用については、課題が残っている。

この課題は、これまで国語科学習指導の授業計画において、教師が児童に身に付けさせたい能力を明確にしていなかったことに関係していると考えられる。また、教材文や新聞を読んで、書き方の特性などを学習に生かし、自らの表現活動に関連付ける単元の構想が、十分図れなかったことも要因として考えられる。さらに、語句の習得、活用についても分からない語句の意味調べをするだけの指導にとどまっており、実生活に活用する語句の拡充を目指す指導には至っていなかった。

そこで、本研究では、「書くこと」の領域を中心に、新聞を活用する言語活動を単元を貫いて位置付け、児童に身に付けさせたい力を明確にした学習計画と取材・構成・記述に関する知識・技能やそれらを支える語句等を習得し活用するための指導と評価を工夫するならば、情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信する児童を育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

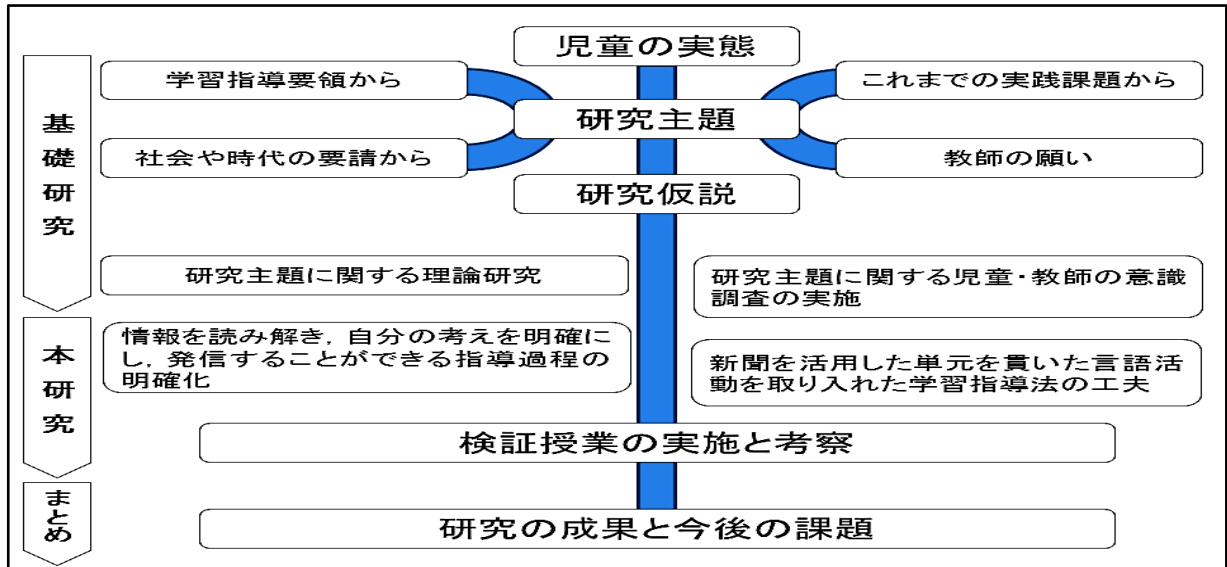
1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領や先行研究等を基に、研究主題についての基本的な考え方を明らかにする。
- (2) 意識調査等から、研究主題に関する国語科学習指導上の課題を明らかにする。
- (3) 新聞を活用する学習過程と「書くこと」の指導事項・言語活動例との関連を明らかにする。
- (4) 国語科学習指導における新聞の活用方法や言語活動の位置付け方、評価の方法を明らかにする。

2 研究の仮説

「書くこと」の領域を中心に、新聞を活用する言語活動を単元を貫いて位置付け、取材・構成・記述に関する知識・技能やそれらを支える語句等を習得し、活用するための指導と評価を工夫するならば、情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信する児童を育成することができるのではないかと考えられる。

3 研究の計画



Ⅲ 研究の実際

1 研究主題に関する基本的な考え方

(1) 研究主題に関する構想

本研究は、日常生活で生きて働く国語の能力を身に付けさせるために、情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる児童の育成を目指すものである。

国立教育政策研究所は、「4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」（平成24年9月）において、「記述の指導では、『話すことを書く（記述する）』、『聞いたことを書く（記述する）』、『読んだことを書く（記述する）』など、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要になる。」と述べている。また、大村^{*1)}(1983)は、「実際の生活の中で、ほんとうに役に立つように、実際の生活にあるような経験をさせていくのがよい。」と述べている。

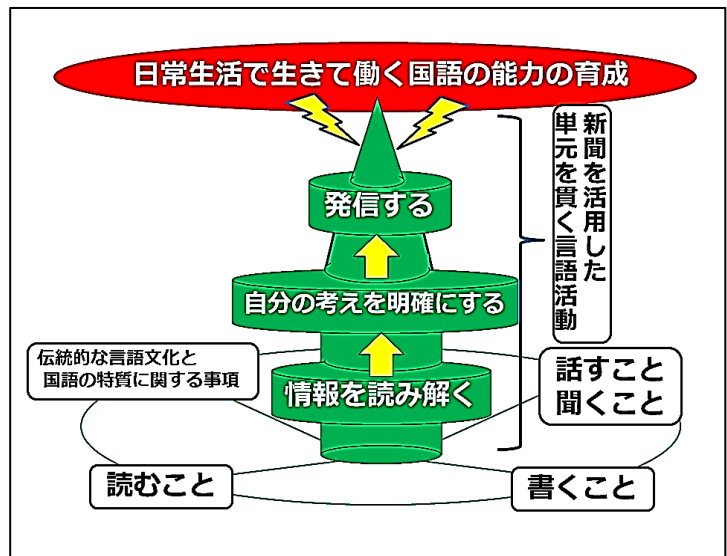


図1 日常生活で生きて働く国語の能力の育成

これまで、本校では、新聞を活用した授業や家庭学習、新聞への投稿などを通して、児童の表現力を向上させようと実践を重ねてきた。その結果、児童は、新聞を読むことに慣れ親しんだり、記事に対してある程度の自分の考えをもち、発表したりするようになった。しかし、そのような経験が、授業や家庭学習で書いたものや普段の生活における話しぶりなどに生きて働いていないとまでは言えなかった。そこで本研究では、これらのことを踏まえ、国語科学習指導の中で、3領域1事項を関連させながら、特に「書くこと」を中心とした学習過程を「情報を読み解く」、「自分の考えを明確にする」、「発信する」とし、日常生活において身近な新聞を活用し、単元を貫く言語活動を位置付け、指導することが、小学校段階における日常生活で生きて働く国語の能力の育成につながると考えた（図1）。

*1) 大村はま 著 『大村はま国語教室 第一巻』 1983年 筑摩書房

(2) 「情報を読み解く」とは

「情報を読み解く」は、国語科学習指導における「書くこと」の課題設定や取材に関する指導事項と深く関わっている。児童は、情報から事実と意見を区別したり、複数の情報を比較したりしながら、自分に必要な情報を収集していく。このことによって、児童は情報の内容理解や情報発信者の意図理解ができ、相手や目的・意図に応じて書く事柄を調べたり、整理したりすることができる。そこで、本研究では、「情報を読み解く」とは、情報を区別して読んだり、複数の情報を比べて読んだりすることで、情報の内容や意図を理解することと捉えることにする（図2）。

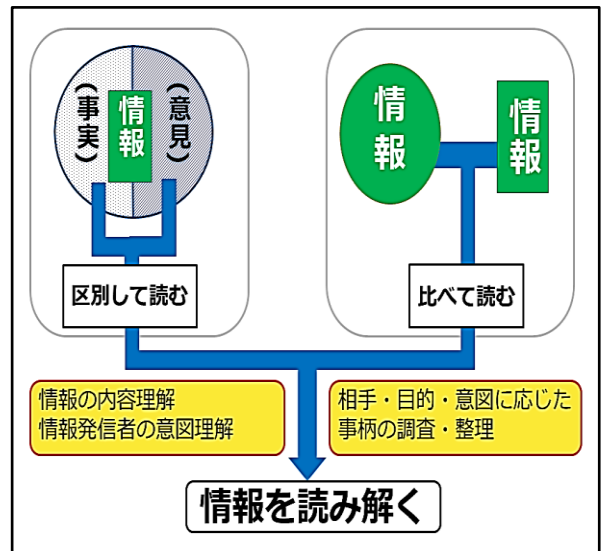


図2 「情報を読み解く」の構造図

(3) 「自分の考えを明確にする」とは

「自分の考えを明確にする」は、国語科学習指導における「書くこと」の構成、記述に関する指導事項と深く関わっている。児童は、読み解いた情報の中から、関連のある情報を根拠として選択し、理由付けをして、考えを明確にしていく。このことによって、児童は、伝えたい内容や事柄を適切に記述したり、論理的な文章構成で書いたりすることができる。そこで、本研究では、「自分の考えを明確にする」とは、読み解いた情報を自分の考えが明確に伝わるように、論理的な文章構成にしたり、適切な記述で表現したりすることと捉えることにする（図3）。

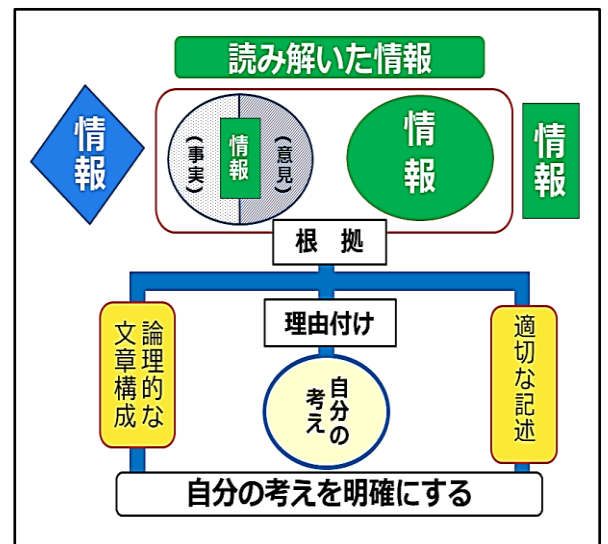


図3 「自分の考えを明確にする」の構造図

(4) 「発信する」とは

「発信する」は、国語科学習指導における「書くこと」の推敲、交流に関する指導事項と深く関わっている。児童は、これまでもち続けてきた目的意識や相手意識と記述することへの関心・意欲に基づいて、自分の考えを記述した文章を推敲・交流する。そうすることで、児童は、自信をもって発信することができる。このことが、表現したことへの達成感を得ることにつながると考えられる。そこで、本研究では、「発信する」とは、明確な相手意識と目的意識、記述することへの関心・意欲をもち続けることで、自分の考えを記述した文章を推敲したり、お互いに交流したりすることと捉えることにする（図4）。

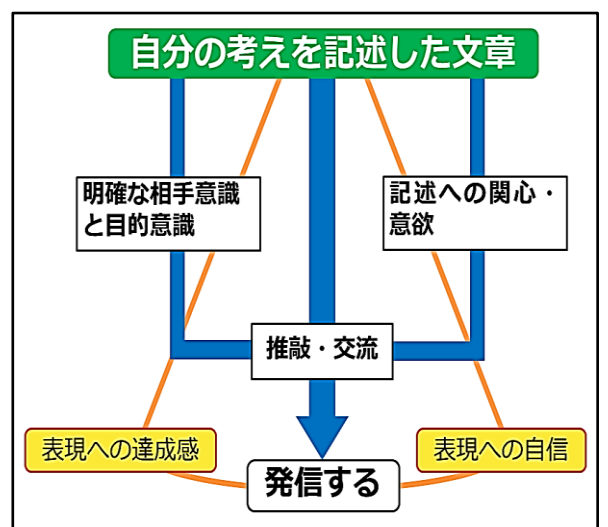


図4 「発信する」の構造図

(5) 国語科学習指導における新聞の活用とは

情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができるようにするためには、日常生活に身近な新聞を国語科学習指導の中で活用することが有効だと考えた。なぜなら、新聞は、国内外における最新の情報や地域に密着した身近な情報を得やすいからである。このことについて倉澤*2)は、「新聞を読むという行為は、万人共通の、おそらく読むという行為の日常性の最も高い率を占める一般的な言語活動であろう。」と述べている。新聞の情報は多面的であり、総合的である。新聞記事には、そのような情報を正確に、簡潔に、分かりやすく伝えることが求められる。そのため新聞記事には、5W1Hの要素や逆三角形型の構成で書くことなどの工夫が施されている。つまり、新聞記事を書くという行為は、「インタビューをする（話すこと・聞くこと）」、「取材したことを記事にする（書くこと）」、「取材に関連のある資料を読み解く（読むこと）」、「適切な語句や表現を使う（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）」の3領域1事項を総合的に取り入れて成立する言語活動であると言える。これらのことから考えると、国語科学習指導において新聞の特性を生かし、新聞を活用した言語活動を授業の中に取り入れることは、児童にとって日常生活で生きて働く国語の能力を高めるために、効果的であると言える。そこで、本研究では、児童にとって身近な情報である新聞を読み、記事に対する自分なりの意見をまとめたり、新聞記事の書き方から文章の構成や適切な表現を学んだりする言語活動を設定していきたい。

2 研究主題に関する分析と考察

(1) 児童の意識調査等を基にした指導上の課題

(調査の実施期間：平成26年6月16日～7月4日 実施対象：曾於市内5校 教諭24人、第5・6学年の児童104人)

児童に日常生活で生きて働く国語の能力を身に付けさせるための指導を工夫するには、児童や教師が、習得したことを「活用」する問題に対してどのような意識をもっているか、表現する際、児童が「書くこと」への課題をどう考えているか把握しておくことが必要である。そこで、これまでの実践の成果や意識調査の結果から、指導の方向性を次のようにまとめた。

ア 本校におけるこれまでの実践の成果と課題から

本校では、平成24、25年度、曾於市教育委員会指定「ICT等教育」研究指定校として「児童一人一人が自分の思いを表現する力を高める学習指導法の研究—効果的な電子黒板・新聞活用の実践を通して—」というテーマで研究を行った。その結果、児童に、書くことへの苦手意識が少なくなったり、新聞記事に対する簡単な自分の考えをもつことができたりするなどの成果が見られた。さらに児童は、「新聞の文章みたいに、詳しく書けるようになりたい。」「もっと自分の使える言葉を増やしたい。」など、学習への意欲を見せるようになった。

イ 文章を書く際の児童の課題について

文章を書く際に、約6割の児童が書くことへの課題を抱えている(図5)。主な理由は、「何を、どのように、どの順序で書いたらいいかわからない。」や「どのような表現や言葉を使えばいいのかわからない。」という理由が多かった。つまり、児童は効果的な文章構成や適切な表現の仕方に課題をもっていることが分かる。

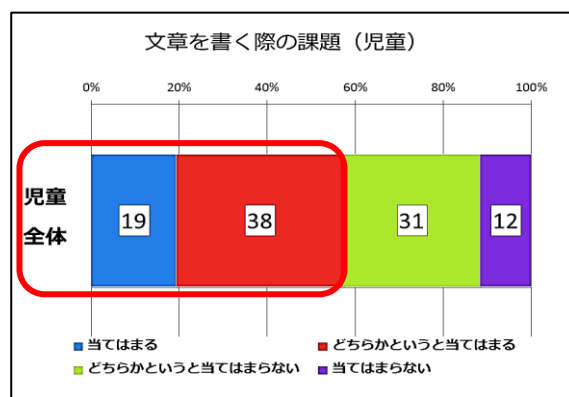


図5 文章を書く際の課題 (児童)

*2) 倉澤栄吉 著 『解説 国語単元学習』 1993年

東洋館出版社

(2) 教師の意識調査を基にした指導上の課題

地区内の小学校教諭を対象に、諸学力調査の「活用」に関する問題に取り組みさせた際の児童の状況について調査した結果、図6の①、②より、問題文の読み取り、条件に沿って書く経験が不足していることが課題であると捉えた。また、③より、論理的に文章構成ができないことも課題であると捉えた(図6)。これらのことから、指導の際、読み取りの視点を明確にしたり、様々な条件に合わせた文章を書かせることが必要だと考えられる。また、授業の中で書く時間を十分に確保し、自分の考えを明確にするための文章構成や適切な表現方法を工夫させて、書くことに慣れさせる必要があると考える。

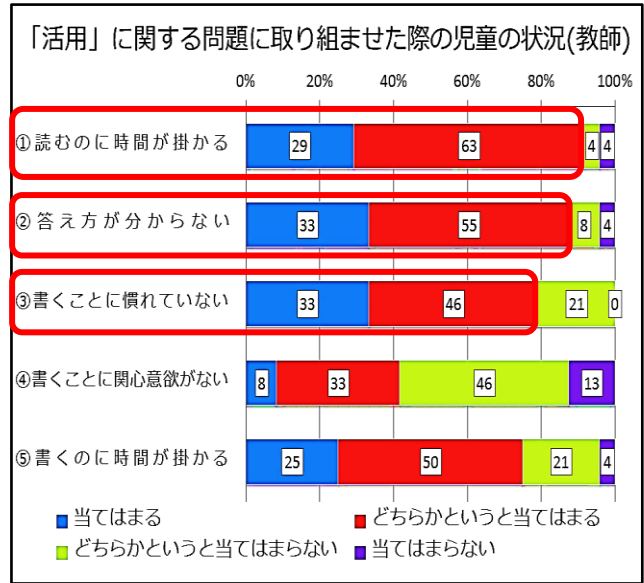


図6 「活用」に関する問題に取り組みさせた際の児童の状況(教師)

(3) 調査結果から考えられる指導の方向性

これまでの調査結果等の分析から、検証授業Ⅰ・Ⅱでは、次のような課題を解決するための指導を工夫して行い、本研究の内容を明らかにしたいと考える。

「活用」に関する問題を解く際の課題	課題の克服に向けた指導上の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 問題文の読み取りが、不十分である。 ● 様々な条件に沿って書く経験が、不足している。 ● 論理的な文章構成ができない。 ● テーマに基づく表現すべき内容を記述できない。 ● 語句の習得と活用が、不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文、教材文を読み解く指導 ○ 相手意識・目的意識をもたせる指導 ○ 自分の考えを明確にする文章構成の指導 ○ 児童の書いた文章表現の評価の方法 ○ 学習した語句を習得し、活用させる指導

3 情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる国語科学習指導の構想

(1) 学習過程に沿った手立ての工夫

本研究では、三段階の学習過程に沿って、「書くこと」の指導事項を当てはめ、学習内容を進めることで、児童が情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信する能力を高めたいと考えた。この学習過程は、新聞記事ができる順序と同様の過程であることが分かる(表1)。このような過程で作成された新聞記事は、文章の構成、表現なども適切に書かれている。つまり、適切な表現で書かれた新聞を読んだり、その書き方を学び、表現したりすることが、情報を正確に、効果的に伝える文章を書くために必要な知識・技能を習得し、活用することにつながると考えられる。

表1 学習過程と新聞作成の過程との比較

学習過程	「書くこと」の指導事項	新聞作成の過程
情報を 読み解き	課題設定 取材 ○ 書くことを決める。 ・ 経験、想像したこと(低) ・ 関心のあること(中) ・ 考えたこと(高) ○ 書くこととする題材に必要な事柄を集めたり調べたりする。	企画 取材
↓		↓
自分の考えを 明確にし	構成 記述 ○ 自分の考えが明確になるよう文章を構成すること ・ 事柄の順序に沿って(低) ・ 段落相互の関係などに注意して(中) ・ 文章全体の構成の効果を考えて(高) ○ 語や文及び段落の続き方に注意してまとまりのある文章を記述すること	記事作成
↓		↓
発信する	推敲 交流 ○ 記述した文章を読み返し推敲すること ○ 書いたものを発表し合い、交流すること	編集 組版・印刷 発送・販売

(2) 新聞を活用した単元を貫く言語活動の工夫

本研究では、国語科学習指導の中で効果的に新聞を活用することで、児童に日常生活で生きて働く国語の能力を向上させたいと考えている。その際、新聞がもつ特性(表2)や、発達の段階を踏まえ、単元を貫く言語活動を位置付けることにした(表3)。

表2 新聞の特性

学習過程	新聞の特性	特性を生かした言語活動
情報を読み解く	5W1Hの要素 事実と意見の区別	新聞の読み比べをする。
自分の考えを明確にする	逆三角形の構成 見出し・小見出し・リード 正確・簡潔・明快な文章	新聞記事を書く。 社説を書く。
発信する	一覧性・総合性・詳報性・視認性 解説性	作成した新聞を使って発表する。 新聞に投稿する。

表3 検証授業における新聞を活用した言語活動の工夫

	検証授業Ⅰ	検証授業Ⅱ
発達の特性を踏まえた指導事項 第5・6学年 「B書くこと」の指導事項	○ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 「B書くこと」の指導事項 ア	○ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすること。 「B書くこと」の指導事項 イ ○ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 「B書くこと」の指導事項 ウ
新聞の特性を踏まえた指導	○ 新聞の投稿文やコラムから文章の構成を学ぶ。 ○ 不特定多数の相手を読む文章として、自分の考えを「投稿文」に書く。	○ 実際の新聞から記事の書き方、社説の書き方を学ぶ。 ○ 新聞に事実を客観的に書いたり(5W1H・逆三角形の構図)、記事の解説(事実+考え)を書いたりする。
単元を貫く言語活動	筆者の意図を捉えながら読み、自分自身を見つめ直し、私らしい生き方を考えた文章を新聞に投稿する。	新聞記者になって「平和」に関する自分の考えを新聞にまとめ、ポスターセッションで伝えよう。

(3) 「判断基準」による評価の工夫

基礎的・基本的知識・技能を活用し、思考・判断・表現した学習状況を確認に評価するためには、評価規準をより具体化する必要がある。そこで、鹿児島県総合教育センターの研究に基づき、「判断基準」を設定して研究を進めることとした。同センターの研究紀要^{*3)}によると「判断基準」とは、「評価規準で設定された児童生徒の『思考・判断・表現』の学習状況をより分析的に表した『判断の要素』を具体化した尺度である。」としている。そこで本研究では、児童が表現した文章を「判断基準」で評価しようと考えた。

*3) 鹿児島県総合教育センター 『研究紀要 117号』 2012年

(4) 語句を習得し活用するための工夫

児童が自分の考えを明確にした文章を書くためには、語句の習得、活用が必要である。しかし、資料などから分からない語句を調べる活動だけでは、その活用には至らないと考えられる。そこで、学習した語句を視覚的に確認するために「語句マップ」を作成させた(図7)。児童が、単元のテーマを中心に連想する語句を書いていくことで、学習が進むにつれ、自分自身が活用できる語句の拡充を実感できるよう工夫した。

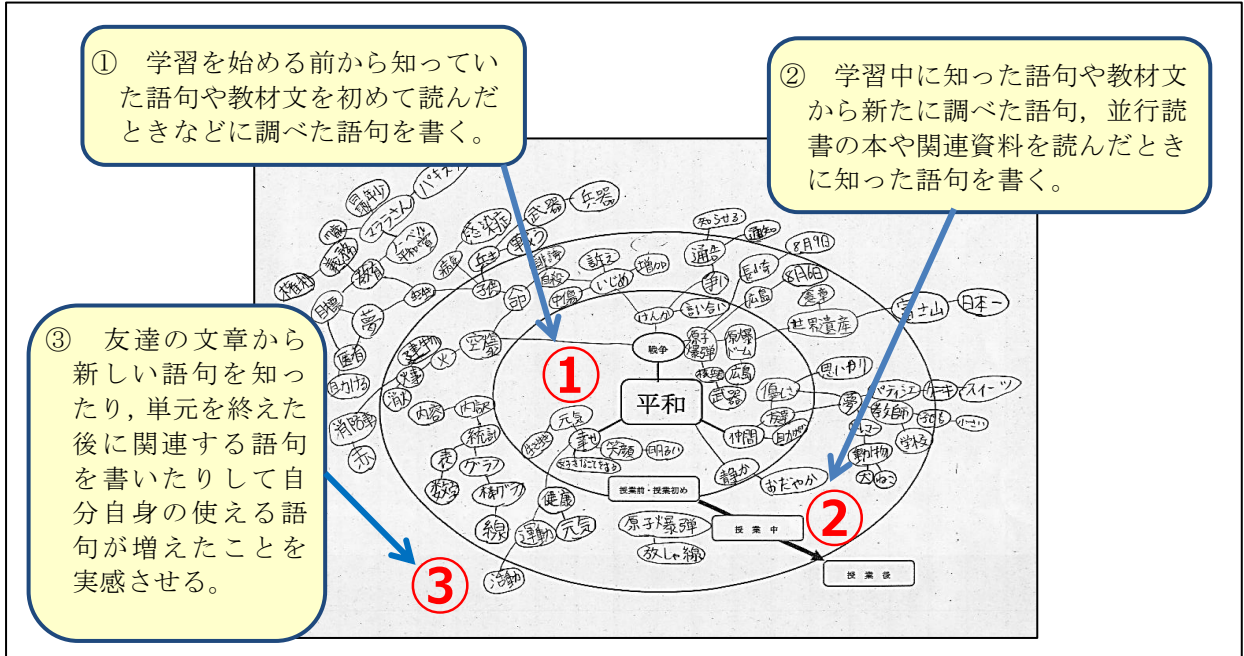


図7 語句マップ(例)

学習を進めながら辞書で調べた語句については、「語句活用ノート」に記録させた(図8)。意味や熟語、短文づくりだけでなく、類義語や対義語も記入する欄を設け、習得を目指した。また、授業や家庭学習における書く活動を通し、調べた語句を活用した日を記録させ、繰り返し使用する意識を高められるよう工夫した。このようにしていくことで、習得だけでなく、実際の文章の中で活用することができ、適切な表現ができるようになる考えた。

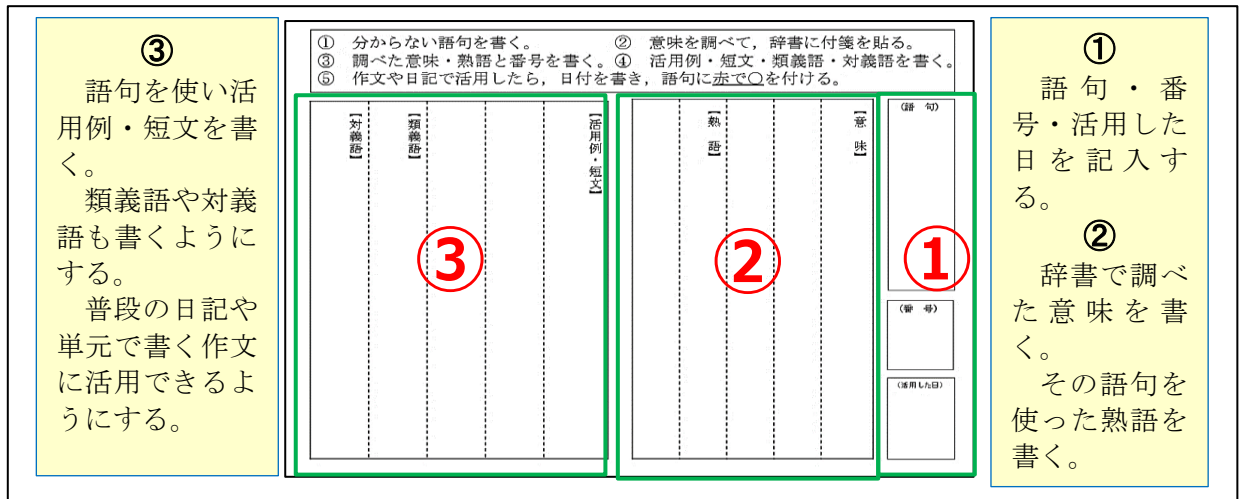


図8 語句活用ノート (例)

4 検証授業 I における検証

(1) 検証授業 I の概要

単元名	自分自身を見つめ直し、私らしい生き方を発信しよう (教材:「感情/生き物はつながりの中に」光村図書6年)
実施学年	曾於市立岩南小学校 第6学年 3人
実施時期	平成26年 7月上旬

(2) 検証授業 I のねらい

ア	必要な情報を読み解かせるための手立てを検証する。
イ	自分の考えが明確に伝わるように、効果的な文章構成を考えさせたり、適切に表現させたりするための手立てを検証する。
ウ	教師が児童の文章を適切に評価し、表現を向上させるような手立てを検証する。


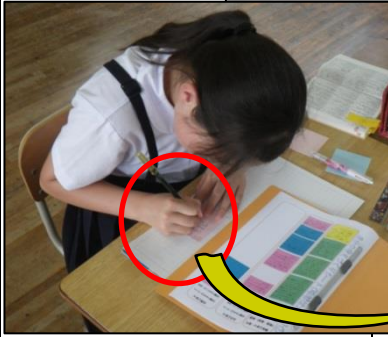
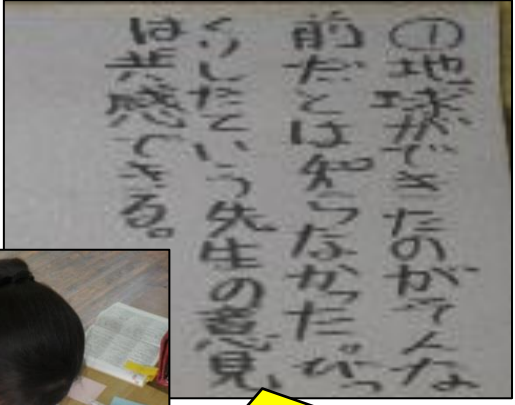


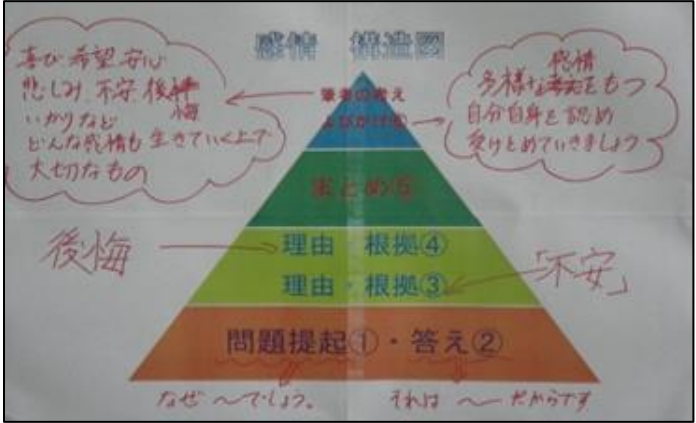
(3) 検証授業 I の新聞を活用した単元を貫く言語活動の設定について

学習過程		主な学習活動	
第一次	つかむ・みとおす	情報を読み解く	1 教材文と関連する本を使い「自分の考えづくりシート」で紙面交流の仕方を学び、学習計画を立てる。
			私らしい生き方をテーマとして、新聞に投稿する文章を書くためには、どのような内容と構成にすればよいだろうか。
			2 「感情」を読み、文章構成を捉え、筆者の主張に対する自分の考えを「自分の考えづくりシート」にまとめ、紙面交流の仕方を知る。
第二次	しらべる	自分の考えを明確にする	3 「生き物はつながりの中に」の文章構成を捉える。三つの生き物の特徴について要点を捉えながら読み、「自分の考えづくりシート」をまとめる。
			4 筆者の主張を捉え、筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、友達と紙面交流する。筆者の主張の中で特に共感したものについて家族へ取材をする。
			5 「自分の考えづくりシート」や取材メモ、投稿文の例を基に、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、友達と交流する。
			6 紙面交流をして得た友達の意見を基に共通点や相違点などを考え、自分の考えを広めたり、深めたりする。
第三次	ふりかえる・いかす	発信する	7 文章の構成や表現を見直しながら、最終的な私らしい生き方を考えた文章にまとめ、読み合う。
			8 自分の考えが明確に書かれているかなど新聞に投稿する前に確認し、学習のまとめをする。
			私らしい生き方をテーマに新聞の投稿文を書くには、筆者の考えや友達の考えと自分の考えを比べながら、自分自身を見つめ直した内容や伝えたいことを順序よく並べて書くとよい。

筆者の意図を捉えながら読み、自分自身を見つめ直し、生き方を考えた文章を新聞に投稿する。

(4) 検証授業 I の実際

ア 「情報を読み解く」過程における指導の工夫

時	主な学習活動 (吹き出し→児童の様子)	教師の働き掛け・手立て	新聞の活用
1 / 8	<p>1 筆者の考えに対する自分の考えをもつための方法を知り、自分自身を見つめ直し、私らしい生き方を発信するための学習全体の見直しをもつ。</p> <p>自分の考えをもつには、どうしたらいいのかな。</p> <p>付箋に自分の考えを書いていくと自分の考えが整理されていくね。</p> <p>共感できるところと共感できないところを分けて、書いていくといいね。教科書の文にも生かせそうだね。</p> 	<p>○ 「自分の考えづくりシート」の説明をする。</p> <p>○ 紙面交流を通して自分の考えを書くときには、自分自身を見つめ直すことが必要だと実感させる(写真1)。</p> 	<p>◇ 教材文と関連する資料として新聞記事を紹介し、教材文に興味をもたせる。</p> 
2 / 8	<p>2 「感情」の文章から自分の生き方のヒントになることを見付ける(図9)。</p> <p>「感情」の全体構成を表にすると筆者の言いたいことがどこに書いてあるかよく分かるね。</p> <p>著者の茂木さんの考えに対する自分の考えをシートにまとめると、自分の考えを整理することができそうだね。</p> <p>私らしい生き方を考える時にも参考にできそうな考えだね。</p> 	<p>○ 付箋を使い、シートに自分の考えを書かせる。</p> <p>○ 紙面交流をさせることで様々な考えがあることに気付かせる。さらに、友達の考えをもっと知りたい、自分の考えを知ってほしいという意欲を高めさせる(写真2)。</p> 	<p>写真2 シートに記入する様子</p>  <p>図9 「感情」全体構成図</p>

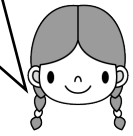
3
/
8

4 教材文「生き物はつながりの中に」を読んで、筆者の考えに対する自分の考えをシートにまとめる。

5 「生き物はつながりの中に」の文章から自分の生き方のヒントになることを見付ける。

「生き物はつながりの中に」は、生き物の三つの特徴が書かれているな。私が共感できたのは……のところだね。

筆者の考えについて自分の考えや友達の考えをまとめると、いろいろな考えを知ることができて、おもしろいな。



- 紙面交流を通して、筆者と対話しながら教材文を読ませることで、筆者の主張を捉え、自分の考えを100字程度にまとめさせる。
- 自分自身を見つめ直す材料として家族に取材させる。取材したことは、記録させ、シートへ貼り付けさせる（写真3）。

私は「生き物はつながりの中に」の「内と外のつながり」について興味をもったから、お母さんに私たちの食事を作るときに気を付けていることをインタビューしたいな。

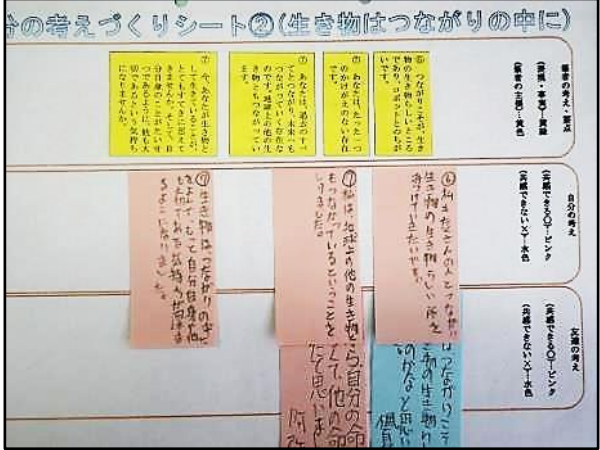


写真3 自分の考えづくりシート

4
/
8

6 「生き物はつながりの中に」の筆者の考えをまとめ、自分の生き方のヒントになるところを見付ける。

筆者は、「生き物としてのつながり」を例に、自分自身が大切であるように、他の人も大切であるという気持ちをもってほしいと考えているな。私もその意見に共感できる。自分の生き方のヒントになりそうだな。

このことについて、お母さんにインタビューしてみよう。



- 紙面交流を通して筆者と対話しながら教材文を読ませることで筆者の主張を捉え、自分の考えを100字程度にまとめさせる（写真4）。
- 自分自身を見つめ直す材料として家族への取材をさせる。取材したことは記録し、シートへ貼り付けさせる。

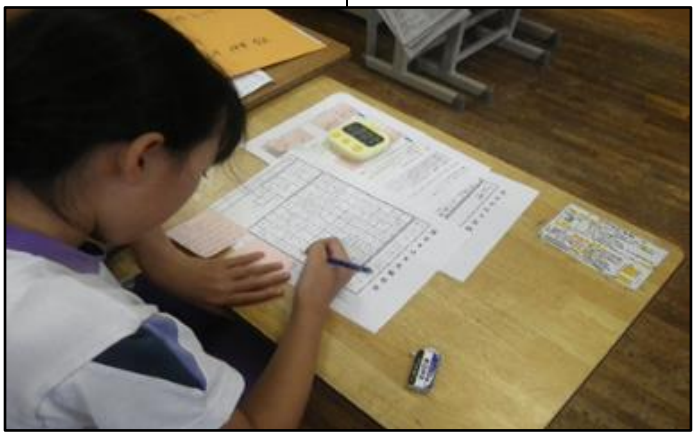

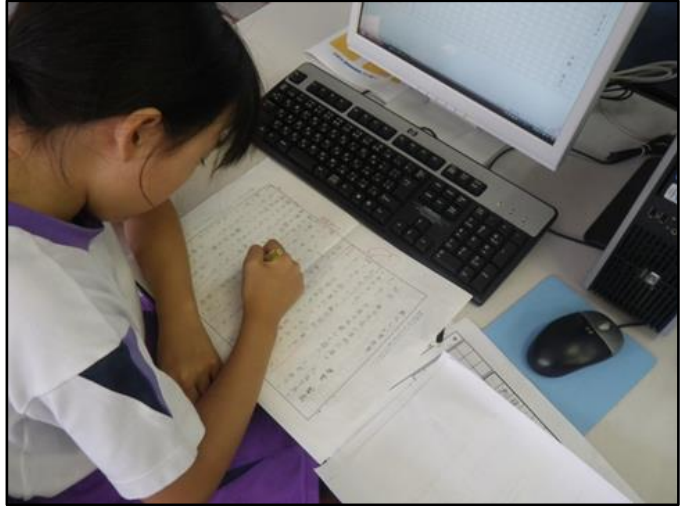

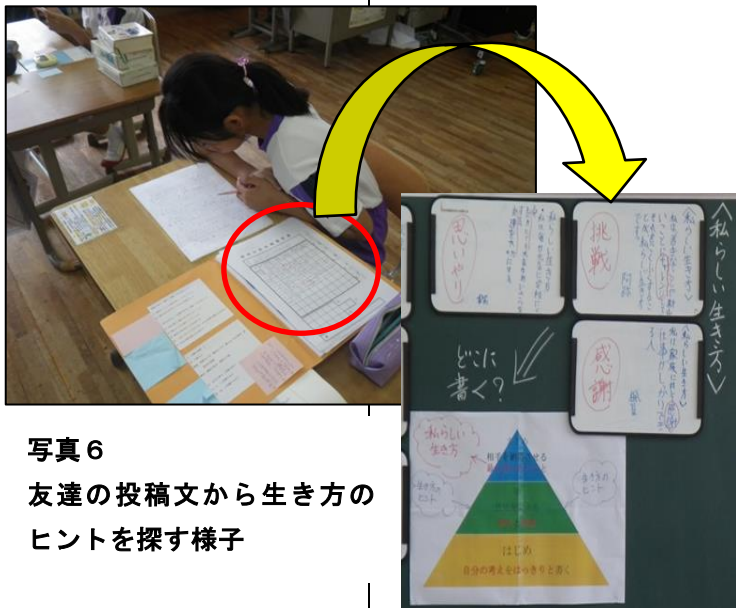


写真4 自分の考えをまとめる様子

イ 「自分の考えを明確にする」過程における指導の工夫

<p>5 / 8</p>	<p>1 自分の考えを明確にした文章についての例文を読んで、文章全体の構成を考えながら、投稿文の下書きをする（写真5）。</p> <p>他の学校の友達が書いた新聞の投稿文を読むと自分の考えを分かりやすく並べていることが分かったよ。</p> <p>今まで整理してきた自分の考えをまとめられるといいな。</p> <p>パソコンで下書きすると、文章の変更や文字を直すときに便利だね。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞の投稿文や新聞記事などから、文章構成を整えるよさを実感させる。 ○ 今まで読み取ってきたことを根拠に自分の考えを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ コラム，新聞の投稿文から文章の構成を学ぶ。  <p style="text-align: center;">写真5 パソコンで下書きする様子</p>
<p>6 / 8</p>	<p>2 友達の書いた投稿文を読んで意見交流をし、自分の投稿文の参考になるところを探し、文章に書き加える（写真6）。</p> <p>友達の投稿文を読むと、自分の考えに共感できるものと共感できないものがあるのが分かるね。</p> <p>私のテーマと関わりのあるところがあるね。</p> <p>自分の投稿文に生かせるようにしたいな。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 付箋の色を変えて意見を交流させることで、考えの共通点や相違点が明らかになるようにさせる。 ○ 共通点や相違点を根拠にした自分の考えを、文章にまとめさせる。 	 <p style="text-align: center;">写真6 友達の投稿文から生き方のヒントを探す様子</p>

ウ 「発信する」過程における指導の工夫

7 / 8

1 下書きした文章を基に、全体の文章構成や適切な表現に注意して清書したり、誤字・脱字がないか確認したりする。

○ テーマにあった文章になるように書く内容や文章構成、表現に注目させて書かせるようにする(写真7)。

○ 友達の発表を聞きながら、メモを取らせたり、感想を発表させたりする。

私らしい生き方を書くために集めた材料をどのように並べたらいいかな。
自分の言いたいことが伝わるように順番を考えていきたいね。
構成が決まったら文章を書くときに迷わなくていいかもね。




写真7 文章の構成を考える様子

8 / 8

2 清書した自分の投稿文を発表する(写真8)。

3 友達と意見交流をする。

4 新聞社へ投稿する。

5 校内掲示板に掲示する。

○ 新聞投稿する前に自分の考えが明確に書かれているかなど確認させる。

自分の考えをたくさん書いていたから、投稿文に書く材料がたくさんあって書きやすくなったな。
新聞に投稿するために書いたから、たくさんの人に読んでほしいな。
今までよりも自分の考えを入れて投稿文を書くことができたな。




写真8 発表の様子と実際の投稿文

あふれる思いやりの心を忘れたい
私は、毎日元気に学校にきて、誰にでも元気なあいさつをして、友達と仲良く学校生活を送りたいと思ってる。そのためにも、私は、「思いやり」の心をもたなければならぬと考えた。
なぜなら、国語の教科書の「生き物はつながりの中に」の作者である中村桂子さんが、「あなたはたった一つのかけがえのない存在です。自分自身が大切であるように、他も大切であるという気持ちになりませんか。」と述べていた。私も同じ考えだったので、とても共感できた。
新聞の中に、ワールドカップの試合会場で日本のサポーターがゴミ拾いをしてる記事を読んだ。私は、この人達のこと、自分のことをけでなく、周りの人達のこと、もう考えられる「思いやり」のある人達だと思った。同じ日本人として尊敬できると思った。
だから、私は学校で友達と仲良く生活したり、家族や大好きな動物と楽しく過ごすために、思いやりの気持ちを忘れずに生きていきたい。

(5) 本単元における「思考・判断・表現」の評価

ア 本単元 6年 「感情／生き物はつながりの中に」の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項
① 筆者の問い掛けに関心をもち、文章を読んで考えようとしている。	① 筆者の意図を捉えている。 ② 筆者の考えとその根拠を捉え、自分なりに評価する観点をもっている。	① 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して、助言し合っている。 ② 自分の考えについて、友達の見解との共通点や相違点を明らかにしながら深めている。	① 筆者が結論を導く過程について、「文章の構成」という観点から理解している。

イ 「判断基準」の設定

本単元 自分自身を見つめ直し、私らしい生き方を発信しよう 「感情／生き物はつながりの中に」 評価規準(思考・判断・表現)
【書く能力】 ② 自分の考えについて、友達の見解との共通点や相違点を明らかにしながら深めている。
思考・判断に基づく表現内容(評価の対象)
新聞に投稿する投稿文の記述
判断の要素
ア テーマについての自分の考え イ 他の児童の考えとの共通点や相違点 ウ 自分自身を見つめ直す内容
判断基準B
ア テーマについての自分の考えを、自分の経験や教材文を根拠に書いている。 イ 他の児童の見解との共通点や相違点のいずれかを書いている。 ウ 他の児童と交流し、自分自身を見つめ直した内容を、投稿文にまとめている。
【予想される児童の表現例】 私には、大切な家族や友達がたくさんいます。例えば、母は私が病気の時、私のことを心配して看病してくれます。〇〇さんも心配してプリントを届けてくれたり、電話で様子を聞いてくれたりします。それは、私と母や〇〇さんの間に「つながり」があるからだと思います。私はこれからもこの「つながり」を大切に生きてきたいと思います。なぜかという、中村桂子さんが言っている「自分自身のことが大切であるように、他も大切である」という考えに強く共感できたからです。(ア) しかし、友達の見解には、家族でない人とは「つながり」がないというものもありました。(イ)私はその意見に反対です。なぜかという、私たちは長い歴史の中で地球上全ての生き物とつながっており、例外はないと考えているからです。 だから、私は、人との「つながり」を大切に、感謝の気持ちをもつことが重要だと思います。今までは、それほど感謝の気持ちを深く考えることはありませんでした。しかし、この学習を通して家族や友達だけを大切にすることはなく、地球上全ての生き物を大切に思えるようになりたいです。なぜなら、私たち生き物はお互いに支え合って生きているからです。感謝の気持ちを忘れない生き方が、これからの私らしい生き方だと思います。(ウ)
C状況児童への補充指導
ア 自分の意見を支えるのに教材文のどの部分が有効であるか示し、補充指導を行う。 イ 友達の見解の中から、自分の考えに似ているもの、違うものを示して、児童に選択させ、補充指導を行う。 ウ 自分の経験をもう一度喚起させ、考えを深められそうなものを示し、補充指導を行う。
判断基準A
イ 他の児童の見解についての共通点や相違点をどちらも書いている。
B状況児童への深化指導
イ 友達の見解をもう一度振り返らせ、自分の考えを深めるために必要なものを考えさせる。

あふれる思いやりの心を忘れない

私は、毎日元気に学校にきて、誰にでも元
気なあいさつをして、友達と仲良く学校生活
を送りたいと思っている。そのためには、私
は、「思いやり」の心をもたなければならな
いと考えた。

なぜなら、国語の教科書の「生き物はつな
がりの中に」の作者である中村桂子さんが、
「あなたはたった一つのかけがえのない存在
です。自分自身が大切であるように、他も大
切であるという気持ちになりませんか」と述
べていた。私も同じ考えだったので、とても
共感できました。

新聞の中に、ワールドカップの試合会場が
日本のサポーターがゴミ拾いをしている記事
を読んだ。私は、この人達は、自分のことだ
けでなく、周りの人たちのことも考えられる
「思いやり」のある人たちだと思った。同じ
日本人として尊敬できると思った。

だから、私は学校で友達と仲良く生活した
り、家族や大好きな動物と楽しく過ごすため
に、思いやりの気持ちを忘れずに生きていき
たい。

あふれる思いやりの心を忘れない

私は、毎日元気に学校にきて、誰にでも元
気なあいさつをして、友達と仲良く学校生活
を送りたいと思っている。そのためには、私
は、「思いやり」の心をもたなければならな
いと考えた。

なぜなら、国語の教科書の「生き物はつな
がりの中に」の作者である中村桂子さんが、
「あなたはたった一つのかけがえのない存在
です。自分自身が大切であるように、他も大
切であるという気持ちになりませんか」と述
べていた。私も同じ考えだったので、とても
共感できました。

新聞の中に、ワールドカップの試合会場が
日本のサポーターがゴミ拾いをしている記事
を読んだ。私は、この人達は、自分のことだ
けでなく、周りの人たちのことも考えられる
「思いやり」のある人たちだと思った。同じ
日本人として尊敬できると思った。

だから、私は学校で友達と仲良く生活した
り、家族や大好きな動物と楽しく過ごすため
に、思いやりの気持ちを忘れずに生きていき
たい。

判断基準 B のウ

判断基準 B のア

判断基準 B のイを満たしていない表現

○ 判断基準 B のア
テーマについての自分の考えを、自分の経験や教材文を根拠に書いている。

✗ 判断基準 B のイ
他の児童の意見との共通点や相違点のいずれかを書いている。

○ 判断基準 B のウ
他の児童と交流し、自分自身を見つめ直した内容を、投稿文にまとめている。

補充指導

「あなたの『思いやり』の心をもたなければならぬ。」という考えと同じ、または、違う友達の意見を一つ選んで、それについてのあなたの考えを書いて見てごらん。

（児童作文の二設客の後こ挿入）

○○さんは、「私は、自分の周りの人に感謝する気持ちを忘れずにこれからは生きていきたい」という意見を書いていた。私はその意見に共感できた。なぜなら私も、人を思いやる生き方をしたいと思っている。そのためには、感謝する気持ちを忘れないのが大切だと思うからだ。

判断基準 B を全て満たす表現ができていた。

= B 状況

図 10 検証授業 I で書いた投稿文の評価例

(6) 検証授業Ⅰの成果と課題 (○成果・●課題)

「情報を読み解く」過程

- 紙面交流をすることで、友達の意見を知ることができ、考えが広がった。
- 「生き物はつながりの中に」の構造を示しながら読ませ、児童は、文章全体の構成を視覚的に確認できた。
- 児童は、自分の考えづくりシートと付箋を活用し、事実や意見、自分の考えを整理したが、読み取った情報をどのように使えばよいか戸惑うことがあった。
- 教材文から学んだことを、自分の表現に生かそうとする意識付けが弱かった。

「自分の考えを明確にする」過程

- 「ひろば」に掲載された同じ小学生の文章を読ませることにより、児童は、「はじめ→中→まとめ」の構成を理解できるようになった。(「ひろば」：南日本新聞社の読者投稿欄)
- 私らしい生き方について確認でき、各自関連付けて書こうとする態度が見られた。
- 自分の考えを効果的に伝えるための論理的な構成と適切な文章表現について、投稿文中に生かす具体的な手立てを考える必要があった。
- 情報と自分の考えを結び付けたり、論理的に表現したりするための語句等が十分に定着していなかった。

「発信する」過程

- 新聞投稿文や文章構成モデルを配布、提案することによって、児童の書く目的意識・相手意識が明確になった。
- 新聞の投稿文を書くという言語活動を通して、今までよりも文章を工夫して書こうとする意識が、3人とも高まった。また、全員が文章を書けるようになったと実感できた。
- 「判断基準」を活用できたが、児童の学習状況を継続して把握することができなかった。
- 新聞の書き方(投稿文の書きぶり)を指導に取り入れ、児童の表現に生かす手立てを考える必要があった。

(7) 検証授業Ⅰの課題を踏まえた指導法の改善

- ア 教材文や図、表から読みとった情報を基にして、新聞記事や社説の書きぶりから表現方法を学習し、自分の考えをより詳細に述べることができる手立ての工夫を行う。
- イ 自分の考えをより明確に伝えるための論理的な文章構成や適切な表現ができる手立ての工夫を行う。
- ウ 評価内容を繰り返し見直ししながら、適切な表現だけでなく、それらを支える語句の習得も評価できる手立ての工夫を行う。

5 検証授業Ⅱにおける検証

(1) 検証授業Ⅱの概要

単元名	自分の考えを明確にもち、「平和」について伝えよう (教材:「平和」について考える 〈資料〉「平和のとりでを築く」 光村図書6年)
実施学年	曾於市立岩南小学校 第6学年 3人
実施時期	平成26年 11月上旬

(2) 検証授業Ⅱのねらい

- ア 資料から表現の方法を読み解かせ、自分の文章を表現させる手立てを検証する。
 イ 理由や根拠になるものを論理的に構成させ、適切な表現で自分の考えを明確にさせる手立てを検証する。
 ウ 相手意識・目的意識をもたせ、習得した語句を活用させる手立てを検証する。

(3) 検証授業Ⅱの新聞を活用した単元を貫く言語活動の設定について

学 習 過 程		主 な 学 習 活 動	
第一次	つかむ・みとおす	情報を読み解く	1 新聞記者の話を聞いて、記事の書き方を知り、学習に見通しをもつ。
	しらべる		自分の考えを明確にし、発信するためには、どのように文章を書いたり発表をしたりすればよいだろうか。
			2 「平和のとりでを築く」から文章の構成や要旨を捉え、「平和」について考える。
第二次	ふかめる		3 「平和」について自分なりの考え（仮の要旨）をもち、新聞記事の方針を決める。
			4・5 自分の意見に、説得力をもたせるための根拠となる資料を調べる。
	ふりかえる・いかす	6・7 調べたことや資料を基に、「平和」に関する新聞記事を下書きする。	
		8 書いた記事を推敲しながら、新聞記事を作成する。	
		9 書いた記事に対する自分の考えを書くために、社説の意味や書き方を知り、自分の新聞の社説を下書きする。	
第三次	ふりかえる・いかす	10 社説の下書きや自分の考えをより明確にするための文章構成を考えながら、社説を書く。	
		11 お互いの社説を読み合い、意見交換する。友達から出てきた意見を参考に推敲する。	
		12 社説の文章（書き言葉）を発表用の原稿（話し言葉）に書き替え、発表の練習をする。	
		発信する	13 ポスターセッションのリハーサルをし、お互いの発表を交流し合う。
			14 「平和」について調べたことや自分の考えを、ポスターセッションを通して発表する。 《学習発表会で発表》
			自分の考えを明確に伝えるためには、調べたことや自分の考え、その理由を分けて文章を組み立てたり、発信する相手や目的をしっかり意識して発表したりすればよい。

新聞記者になって「平和」に関する自分の考えを新聞にまとめ、ポスターセッションで伝えよう。

(4) 検証授業Ⅱの実際

ア 「情報を読み解く」過程における指導の工夫




時	主な学習活動 (吹き出し→児童の様子)	教師の働き掛け・手立て	新聞の活用
1 / 14	<p>1 新聞記者による講話を聞き、新聞記事の書き方への興味・関心を高めるとともに、理解を深める。</p> <p>今まであまり考えていなかったけど、記者の方から直接話を聞いて、新聞記事の書き方が分かったよ。</p> <p>学習した記事の書き方を生かして、私たちの「平和」に関する新聞を作りたいな。</p> <p>今日の学習を生かして、明日の遠足の様子を、ミニ新聞にまとめてみよう。</p> 	<p>○ 南日本新聞社の記者から記事の書き方や「平和」に関する記事を書くときの思いを聞けるように、打ち合わせる。</p> <p>○ 記事の書き方をまとめて教室に掲示し、児童に確認させる(図11)。</p> <div data-bbox="710 683 1433 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読み手(わめ)やすい新聞記事を書くためには…</p> <p>① 記事には5W1Hの要素を原則として文章に入れる。 いつWHERE(どこ)でWHEN(だれが)WHO(何を)WHAT(なぜ)WHY(どのように)HOW</p> <p>② 見出しについて 見出しは、読者を引きつける「簡潔な記事」である。 記事の字句を使い「客観的な見出し」にする 九十一文字</p> <p>③ リードについて リードはできるだけ短く書く。 一読してニュースの内容がわかるようにする。</p> <p>④ 本文について ・ニュースの内容を詳しく述べるためのもの ・できるだけリードと内容や表現が重ならないようにする。</p> <p>⑤ 新聞を書くときの思い 「新聞記者は、目的意識(ニュースを正確に伝えたい)と相手意識(読者に読んでほしい)を大切にしている。」</p> </div>	<p>◇ 実際の新聞を見て記事の書き方を確認させる。</p> <p>◇ 学習したことを生かしてミニ新聞を作成させる。</p>
2 / 14	<p>2 「平和のとりでを築く」を通読し、実際の新聞の社説と読み比べる。</p> <p>3 「平和のとりでを築く」の文章構成・要旨を捉える。</p> <p>新聞の社説の書き方と「平和のとりでを築く」の書き方は、どちらも事実と意見が分けて書いてあるところが似ているな。</p> <p>私も社説を書くときは、「平和のとりでを築く」の書き方を参考にすればいいな。「平和のとりでを築く」の題名は、新聞の見出しのような役割があるのかな。</p> 	<p>○ 読み取りの視点として事実と意見が書かれているところを見付けるように確認させる(写真9)(図12)。</p> <p>○ 「序論」・「本論」・「結論」や「頭活型」・「尾活型」・「双括型」などの用語について確認させる。</p> <p>○ 教材文と社説を読み比べさせることで、気付いたことをまとめさせる。</p> 	<p>◇ 5W1Hを読み取りの視点として活用させる。</p> <p>◇ 題名を見出しと考えると要旨を捉えやすくなる。</p> <div data-bbox="1101 1400 1436 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>原爆ドームが、世界遺産の候補として審査を受けることになったとき、わたしは、ちよびり不安を覚えた。それは、原爆ドームが、戦争の被害を強調する遺跡であること、そして、規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡であることから、はたして世界の国々によって認められるだろうかと思っただけであつた。【か】 【か】は無用だつた。決定の知らせが届いたとき、わたしは、世界の人々の平和を求め、気持ちを改めて感じたのだ。</p> <p>痛ましい姿の原爆ドームは、原子爆弾が人間や都市にどんな被害をもたらすかわたしたちに無言で告げている。果敢の世界で核兵器を一度と使つてはいけな【い】や、核兵器はむしろ不必要だと、世界の人々に警告する記念碑なのである。国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と記されている。原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。</p> </div>

図11 記事の書き方(教室掲示)

図12 色分けした教材文

写真9 色分けをしながら教材文を読む児童

- 4 「平和」から連想する言葉を参考にして、自分なりの考え(仮の要旨)をもつ。
- 5 仮の要旨を基に編集方針を決める。

自分の考えをしっかりと述べるための文章(社説)は「平和のとりでを築く」を見てみると、三つの資料を基に書かれているな。私が社説を書くときの参考にしよう。

新聞記者として「学習発表会に来てくれる人」〈相手意識〉に、「未来の平和とは」〈目的意識〉について伝えることができたらいいな。



- 「平和のとりでを築く」の構成や平和から連想する言葉を参考にして、自分なりの考え(仮の課題・仮の要旨)を決めさせる。
- どんな記事にするのか、新聞全体の編集方針をもたせるようにする(図13)。

◇ 平和に関して書かれた新聞記事を参考に、作成する新聞の編集方針を考えさせる。

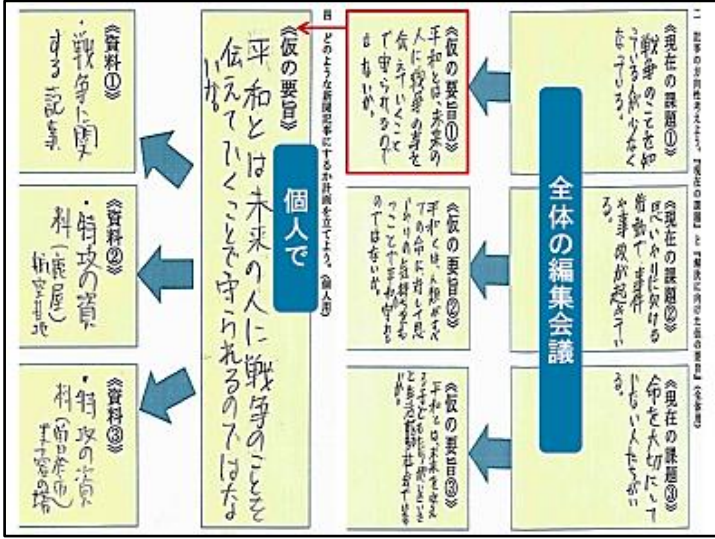


図13 編集方針を決めるワークシート

- 6 根拠となる資料を調べる。
- 7 事実と意見を区別してまとめる(写真10)。

たくさんの資料があるけど、自分の考えを支えるための資料を選ばないといけない。新聞の読み方で学習した見出しやリードから読むと記事の内容がすぐに分かるね。これは、新聞記事の書き方にも参考になるね。

関連した記事や友達の見ている記事なども参考になるものがあるね。

事実と感想は必ず分けて書き、記録しておこう。





- 根拠になる事実を「平和」に関連する資料や写真、新聞や本、インターネットから集めさせる。
- 集めた情報は、事実と自分の感想を分けて記録させる。関連のある言葉等も記録させておく。

◇ 新聞の見出しやリードなどから素早く情報を読み取れるようにする。



写真10 新聞記事から事実を調べる様子

イ 「自分の考えを明確にする」過程における指導の工夫

<p>6 ・ 7 / 14</p>	<p>1 新聞記事の下書きをする。</p> <p>(1) 見出しを決める。</p> <p>(2) リードを書く。</p> <p>(3) 本文を書く。</p> <p>見出しは、10文字以内に書くようにしないとね。</p> <p>リードは、5W1Hをしっかり入れていかないとね。</p> <p>本文を書くときは、逆三角形の構成にしないとイケないよね。</p> <p>記事の書き方を守って書けば、新聞を書くのも難しくないね。見出しが上手く決まらないときは、最後に書いてもいいかもね。</p> 	<p>○ 新聞記事の書き方を提示して、必ず入れる要素や構成の仕方について確認させる(図14)。</p> <p>○ 記事を書く様子を見ながら、読み手がイメージしやすい文章になっているか確認させる。</p>	<p>◇ 新聞記事の書き方を参考にさせる。</p>														
<p>8 / 14</p>	<p>2 記事の下書きを観点に基づいて推敲する。</p> <p>自分の書いた文章を友達に読んでもらったり、自分自身も読み手として読んでみると、読みにくいところや文字の間違いに気付くことができるね。</p> <p>もう一度、書き直して新聞づくりができるようにしておこう。</p> <p>パソコンで入力しておけば、書き直すときもすぐできるね。</p> 	<p>○ 新聞記事の書き方を復習しながら、推敲する観点を知らせる(図15)。</p> <p>○ チェック表で確認しながらお互いの下書きを見直させる。</p>	<p>◇ 新聞の書き方については、以下の点について重点的に確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5W1H ・ 見出しの書き方 ・ リードの書き方 ・ 逆三角形の構成 														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">《そで見出し》～10文字</p> <h2 style="text-align: center;">動物も人間も同じ命</h2> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 10%; vertical-align: top;">りな の尊 い命 につ いて 考 え る 日 本 人 の 思 い や</td> <td style="width: 10%;">う 間 命 の 重 さ に 変 わ り な し と い う</td> <td style="width: 10%;">の ち の 花 と い う 本 に は 意 味 な く</td> <td style="width: 10%;">死 分 は 年 間 1 6 万 匹 を 超 え る</td> <td style="width: 10%;">け れ ば 、 殺 処 分 さ れ る</td> <td style="width: 10%;">ツ ト は 新 しい 飼 い 主 が 見 つ か ら な</td> <td style="width: 10%;">て し ま う 飼 い 主 を 簡 単 に 捨</td> <td style="width: 10%;">飼 え な く な っ た ペ ツ ト を 簡 単 に 捨</td> <td style="width: 10%;">間 の 思 い や り に か け た 行 動 。ま た</td> <td style="width: 10%;">よ り 弱 い 立 場 の 生 き 物 に 対 す る 人</td> <td style="width: 10%;">月 に 起 き た 盲 導 犬 へ の 虐 待 。自 分</td> <td style="width: 10%;">今 、 社 会 の 問 題 に な っ て い る</td> <td style="width: 10%;">「リード」は、百五十～二百字程度にまよめる</td> <td style="width: 10%; vertical-align: top;">《見出し》十文字～十二文字 日本人の「思いやり」</td> </tr> </table> </div>				りな の尊 い命 につ いて 考 え る 日 本 人 の 思 い や	う 間 命 の 重 さ に 変 わ り な し と い う	の ち の 花 と い う 本 に は 意 味 な く	死 分 は 年 間 1 6 万 匹 を 超 え る	け れ ば 、 殺 処 分 さ れ る	ツ ト は 新 しい 飼 い 主 が 見 つ か ら な	て し ま う 飼 い 主 を 簡 単 に 捨	飼 え な く な っ た ペ ツ ト を 簡 単 に 捨	間 の 思 い や り に か け た 行 動 。ま た	よ り 弱 い 立 場 の 生 き 物 に 対 す る 人	月 に 起 き た 盲 導 犬 へ の 虐 待 。自 分	今 、 社 会 の 問 題 に な っ て い る	「リード」は、百五十～二百字程度にまよめる	《見出し》十文字～十二文字 日本人の「思いやり」
りな の尊 い命 につ いて 考 え る 日 本 人 の 思 い や	う 間 命 の 重 さ に 変 わ り な し と い う	の ち の 花 と い う 本 に は 意 味 な く	死 分 は 年 間 1 6 万 匹 を 超 え る	け れ ば 、 殺 処 分 さ れ る	ツ ト は 新 しい 飼 い 主 が 見 つ か ら な	て し ま う 飼 い 主 を 簡 単 に 捨	飼 え な く な っ た ペ ツ ト を 簡 単 に 捨	間 の 思 い や り に か け た 行 動 。ま た	よ り 弱 い 立 場 の 生 き 物 に 対 す る 人	月 に 起 き た 盲 導 犬 へ の 虐 待 。自 分	今 、 社 会 の 問 題 に な っ て い る	「リード」は、百五十～二百字程度にまよめる	《見出し》十文字～十二文字 日本人の「思いやり」				
<p style="text-align: center;">図14 見出し・リードの下書き(ワークシート)</p>																	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">図15 推敲の視点</p> <p>☆ 推敲する時は、自分自身が「読み手」(の立場になって、文章を読み直す。念せんの意味)</p> <p>☆ ピンク ↓ 良いところ(具体的にいいところを書く)</p> <p>☆ 水色 ↓ 改善したほうが良いところ(具体的に改善点を書く)</p> <p>《推敲のチェックリスト》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 記事の書き方の決まりが守られているか。(5W1H・逆三角形の構成) ② 読み手にイメージが伝わる文章になっているか。 ③ すらすら読みやすい文章になっているか。 ④ 一文が長くなっていないか。(複文・重文) ⑤ 主語と述語があっているか。 ⑥ かかる言葉は近くにあるか。 ⑦ あいまいな表現は使っていないか。 ⑧ 分かりやすい言葉で書いているか。 ⑨ 誤字や脱字はないか。 ⑩ 句読点・符号等が正しく使われているか。 </div>																	


3 社説について知る。

4 記事に対する社説を書く。

社説は、事実とそれに基づいた意見を書いた文章になっているね。

自分の調べた事実とそれに対する自分の意見・感想を構成していけば、社説の文章が完成しそうだ。

自分の考えが明確になるように、構成の順番を工夫することもできそうだね。



9 / 14

- 社説の書き方について記事との違いを明らかにしながら説明する。
- 自分の書いた記事に対する社説を書くことを確認させ、事実と意見、感想を書き分け、構成させる(図16)。

- ◇ 実際の新聞の社説を読んで気付いたことを話し合う。
- ◇ 事実と意見、感想が書いてあるところを文末表現で区別する。

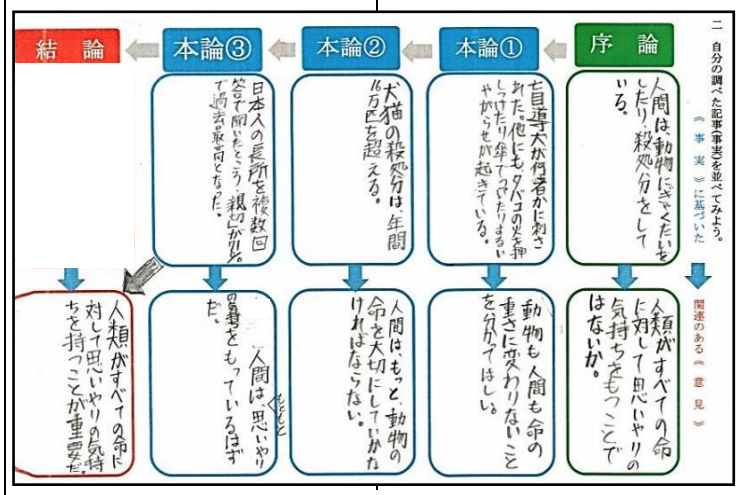


図16 社説の構成(ワークシート)

5 全体の構成を考える。


6 事実と理由・意見、感想を区別して社説を完成させる。

前の時間に書いた社説と実際の新聞の社説を比べると何か足りない文がありそうだね。

意見に対する「理由」の部分を書くと、自分の考えがはっきりしそうだね。

事実と理由と意見をより詳しく書いていけば、自分の意見を更に明確にすることができそうだね。

書き直した自分の文章や友達の文章を読むと、理由の部分が書かれていて、分かりやすくなったね。



10 / 14

- 自分の考えの中心が伝わるように、段落ごとの下書きから全体の構成を考えさせる。
- 事実と意見、感想の区別、関連付けができていないか確認させる(図17)。

- ◇ 実際の新聞の社説を読み、書き方を確認する。
- ◇ 事実・理由・意見の構成を意識させる。

読み手に伝わりやすい社説を書くためには…

《社説の全体構成》

《序論》…筆者の意見・感想(筆者の考え①)

《本論》…根拠となる記事(事実+理由)に基づいた意見・感想

《結論》…まとめとなる要旨(筆者の考え②)

社説は『双括弧』の文章構成になっている。

《社説の文章》…(事実+理由)と《意見》で構成

《例》南日本新聞 社説から

鹿児島県内で交通死亡事故が多発している。2日には曾於市末吉で、乗用車同士が正面衝突し2人が死亡、2人が大けがをする事故が発生した。

《理由》 今年の死者は79人に上り(10月30日現在)、前年同期と比べて6人の増加である。特に10月は13人が犠牲になっている。県警によると、死者が110人だった2006年に比べ、5年ぶりに100人を超す恐れがあるという。…から

《意見》 憂慮すべき事態である。ドライバーも歩行者も、いま一度気を引き締め、事故防止に努めたい。

《適切な表現として》


☆ 文末の表現に気を付けよう ☆

《事実》 「…ことがわかる」「…している」「…」

《理由》 「…だからである」「…のためである」「…と考える」「…が大切である」「…してほしい」

《意見》 「…と考える」「…が大切である」「…してほしい」

図17 社説の書き方(教室掲示)

<p>7 社説の下書きを、観点に基づいて、推敲する (図 18)。</p> <p>新聞記事を推敲する時のように、自分自身が読み手になって、読むといいね。</p> <p>友達に読んでもらって、付箋にアドバイスをもらえるといいね。</p> <p>読みにくいところや意味が通じないところは、もう一度書き直してみよう。</p> <p>それぞれの意味段落を、事実→理由→意見の順で書いたり、全体の構成を考えて並べ替えたりすると、自分の一番に言いたいことが、より伝わりやすい社説になったよ。</p> 	<p>○ 書き上げた社説を読み直し、読みにくいところや意味の伝わりにくいところがないかお互いに確認させる。</p>	<p>◇ 実際の社説と比べながら推敲する。</p>
---	---	---------------------------

夢いっぴいの社会へ

私の考える「平和」とは、未来を支える子供たちが生き生きと活動できる社会のことである。現在、世界中で、多くの子供たちが治療可能な感染症などで命を落としている。また、イスラム、キリスト教徒の衝突が続く中央アフリカでは、それぞれの民兵組織が駆り出された子供がお互いに殺し合う状況にある。

このことを私は新聞で知ったとき、とても信じられないと思うと同時に、子供たちがこのようにならずな状況にある世界は決して「平和」とは言えないと思った。世界中

唯一の解決策だ。」と訴えている。世界中の子供たちが、生き生きと教育を受けられることができれば、平和な世界が現実になるはずだ。


私は日本人には、教育を受けさせる義務があり、めも多様化している。だから、私たちは相手の気持ちを

このように、子供たちが生き生きと活動でき、夢いっぴいの社会を築くことが、「平和」へとつながるのではない。

(6年)

図 18 完成した社説

ウ 「発信する」過程における指導の工夫

<p>1 社説を基に話し言葉で発表用原稿を書く。</p> <p>2 音読して確認する。</p> <p>社説をそのまま読んでも相手に伝わりにくい。書き言葉と話し言葉は違うから、ポスターセッションの発表の時は、話し言葉のいいところを生かした発表原稿に書き直さないとけないね。</p> <p>記事の内容をより詳しく示すための写真や図も必要だね。聞いている人の様子を見ながら発表しよう。</p> 	<p>○ 話し言葉と書き言葉の違いやよさについて話し合わせる。</p> <p>○ 教科書の例文を参考に書き言葉を話し言葉に直させる (写真 11)。</p> <p>○ 発表の練習をさせる。</p>	<p>◇ 発表に使う新聞記事を準備する。</p> <p>◇ 内容に関係のある写真や資料を準備する。</p>
---	--	---




写真 11 社説から発表原稿を作成する様子

<p>13 / 14</p>	<p>3 各自の発表に対する質問を考える。</p> <p>4 ポスターセッションのリハーサルをする。</p> <p>友達や自分の発表を聞いて、分かりにくいところや、もっと聞いてみたいことを、質問カードに書いて準備をしておこう。</p> <p>質問に対する答え方も考えておこう。</p> <p>私の発表の時間は3分だから、話すスピードや強弱の付け方など工夫できるところは、発表原稿にメモしておこう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ お互いに質問し、交流できるように、新聞を見て疑問に思ったことやもっと知りたいことを考えさせる。 ○ 場所や時間を本番どおりに設定し、リハーサルをさせる。 ○ リハーサルを通して修正する点を整理して練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 拡大した平和に関する新聞記事を掲示する (図 19)。 ◇ 展示する関連資料の新聞や写真を準備する。  <p style="text-align: center;">図 19 完成した新聞</p>
<p>14 / 14</p>	<p>5 一人ずつコーナーを設け、ポスターセッションをする。</p> <p>発表する前にもう一度、目的意識と相手意識を確認しておこう。</p> <p>(日記より)</p> <p>あまり間違えずにはきはきと発表したり、たくさん質問してもらったりしたので、うれしかった。</p> <p>すごく緊張したけど、発表が終わった後に、「発表、上手だったよ。」と声を掛けてもらってうれしかった。</p> <p>たくさんの人たちが私の話を聞いてくださって、とてもうれしかった。また、次もポスターセッションしてみたいです。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習発表会の会場内に、それぞれのコーナーを設け、新聞を拡大印刷したものを展示する。関連の新聞や写真資料なども展示する (写真 12)。 ○ 来場者に聞いてもらい、質疑応答をしてもらう。事前に幾つか質問も準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 拡大印刷した平和に関する新聞と関連資料を展示する。   <p style="text-align: center;">写真 12 ポスターセッションの様子</p>

(5) 本単元における「思考・判断・表現」の評価

ア 本単元 6年 『平和』について考える」の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す能力 聞く能力	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
① 教材文や新聞の社説を読み、自分の考えをまとめようとしている。	① 平和について調べ、分かったこととそれに対する自分の意見を区別したり、新聞記事からの引用部分を明確にしたりして話している。 ② 友達の社説の意見と自分の社説の意見や根拠になっている記事と対比して、聞いている。	① 新聞記事や資料などを引用したり、自分の社説の考えを支える根拠となる記事を示したりしながら、説得力のある社説を書いている。	① 社説の書き方を学ぶために、教材文や社説の内容を読み比べている。 ② 新聞記事の編集の仕方や社説の書き方に注意して資料を読んでいく。	① 新聞の記事や社説の文章（書き言葉）とポスターセッションでの発表原稿（話し言葉）の違いに気付いている。 ② 効果的な意見文（社説）やポスターセッションの発表の構成を考えている。

イ 「判断基準」の設定

本単元	自分の考えを明確にもち、「平和」について伝えよう (教材:「平和」について考える 〈資料〉 「平和のとりでを築く」 光村6年)
評価規準(思考・判断・表現)	
【書く能力】	
① 新聞記事や資料などを引用したり、自分の社説の考えを支える根拠となる記事を示したりしながら、説得力のある社説を書いている。	
思考・判断に基づく表現内容(評価の対象)	
学習発表会における提示資料(岩南日本新聞)	
判断の要素	
ア 資料等の引用による記事 イ 説得力のある社説 ウ 「平和」に関する語句	
判断基準B	
ア 教材文や資料などから読み取った内容や書き方を生かして記事を書いている。 イ 自分の考えを支える根拠になる事実を新聞などの資料から見付け、自分の意見、感想と関連付けながら社説を書いている。 ウ 「平和」から連想される語句を五つ以上活用している。	
【予想される児童の表現例】	
【新聞記事】・【社説】 ※ 別記(P.24「予想される表現例 (新聞記事と社説)」参照)	
C状況児童への補充指導	
ア 教材文や資料から読み取ったことを整理し、記事の書き方を例で示し、補充指導をする。 イ これまで調べた情報を整理し、自分の考えの根拠になるものについて関連付けを示しながら、補充指導をする。 ウ 語句活用ノートから自分の意見文に活用できる語句はないか再確認し、意味の分からないものや活用が難しいものについて補充指導をする。	
判断基準A	
ア 教材文等から読み取った内容や書き方を生かして、新聞として整った記事を書いている。	
B状況児童への深化指導	
ア より読み手に伝わりやすい記事の書き方を示し、推敲すべき箇所はないか考えさせ、深化指導を行う。	

岩南日本新聞

未来に伝えたい平和

南九州市には、特攻隊にゆかりの深い知覚特攻平和館がある。市は、そこに収蔵されている資料3333点の2015年世界記憶遺産登録を目指していたが、今回のユネスコ国内委員会の候補には、入らなかった。準備に奔走してきた関係者は落胆した表情を隠せなかったが、2017年の登録へ再挑戦への決意を新たに示した。

新たに 誓い 平和伝える

今回、世界記憶遺産登録を目指した4件は、東寺百合文書(政府)、特攻隊の手紙や遺書(南九州市)、シベリア抑留に関する日記や手紙(京都府舞鶴市)、全国水平社創立宣言(奈良人権文化財団)など。このように、国内での登録の動きは広がりを見せている。記憶遺産の審査は2年に1度。政府以外に地方自治体や団体、個人も申請できるが、一つの国の審

査枠は2件となっている。今回の南九州市の特攻隊の手紙や遺書をめぐっては、中国や韓国で「侵略の歴史を美化しようとしている」などと批判の声が出ていた。このように、世界の国々の理解を得ながら、多様な視点からの世界的な重要性を説明することが望まれると指摘されたこともあり、今回世界記憶遺産を目指した知覚特攻平和館が収蔵する特攻隊員の遺書や手紙は、17年登録へ再挑戦することになった。

ズーム

記憶遺産…世界各地の古文書や絵画などの保護を目的に、1992年に創設された。建造物や自然が対象の世界遺産、伝統芸能や社会的習慣が対象の無形文化遺産と並ぶユネスコ遺産事業の一つ。世界遺産や無形文化遺産とは異なり、根拠となる国際条約はない。1月時点で総数は301件で国内では、山本佐兵衛やまもとさくべい(炭鉱記録画・記録文書)など3件が登録されている。

- ① 見出し
- (大見出し・袖見出し)
- ② U・I・D(5W1H)
- ③ 本文(逆三角形の構成)

《 新聞記事の要素 》

未来に平和を伝えよう

平和を伝える活動が 値のある遺産を世界に 国内でも盛んに行われ 認めてもらうことが重 要である。 広島や長崎は 要である。 もろろん、鹿児島県で 私のお互いを認め 合い、尊重し合うこ とである。 南九州市知覚特攻平和 会館に収蔵されている 特攻隊員の日記や手紙 などが成り立っている 国と人、人と人との つながりである。その つながりが切れた時、争 いやテロが起き、無 関係者は、どれほど落 胆したことだろう。私 大戦において日本は、 非常に残念に思う。 朝鮮半島への侵略や中 国への攻撃を世界の国 互いに尊重し合い話し 合いで解決すること

が、人間らしい行動で あると同時に、大切な 命を守ることも重要な ことである。 これからの時代を平 和な時代にするために、 私たち日本人は、 戦争の悲惨さを世界中 に発信し、世界の国や 人々とのつながりをも ち続けることが大切だ と私は、強く思うので ある。

係な人の命が奪われる ことになるのである。 例えば、第二次世界 大戦において日本は、 互いに尊重し合い話し 合いで解決すること

- 《 社説の要素 》
- ① 記事に書かれた内容(事実)
- ② 記事への自分の考え(意見)



- 見出しの付け方
- ① 十文字程度で書く。
 - ② リードに使った言葉で書く。
- 《リードの書き方》
- ① 5W1Hで書いている。
 - ② 内容を簡単にまとめる。

今、社会の問題になっている7月に起きた盲導犬への虐待。自分より弱い立場の生き物に対する人間の思いやりにかけた行動。また、飼えなくなったペットを簡単に捨てる。犬猫の殺処分は年間16万匹を超える。「いのちの花」という本には「意味なく命を奪ってはいけない。動物も人間も命の重さに変わりはない。」という思いが込められている。そんな尊い命に対する日本人の思いやりの心について、考える。

6年（ ）

判断基準Bのア
 教材文や資料などから読み取った内容や書き方を生かして記事を書いている。

判断基準Bのイ
 自分の考えを支える根拠になる事実を新聞などの資料から見付け、自分の意見、感想と関連付けながら社説を書いている。

判断基準Bのウ
 「平和」から連想される語句を五つ以上活用している。

〈社説〉

思いやりを日本から

私の考える「平和」ともつことができれば、人間が全ての「命」に対して思いやりの気持ちをもつことである。自分だけでなく、他の全ての生き物の「命」に対して思いやる気持ちをもつことである。しかし、世の中では、少し思いやりが欠けている出来事をよく見たり聞いたりする。社会では、盲導犬が心無い何者かに刺されたたり、タバコの火を押し付けられたりする盲導犬へのいさめたりする行為が問題になっている。私たち人間が、相手の思いやる気持ちを

また、ペットとして飼われていた犬猫の殺処分は、年間16万匹を超える。原因は飼えなくなってしまうからだ。保護された動物は新しい飼い主が見つからなければ、殺処分されてしまう。動物も人間も命の重さには変わりはない。「命」の大切さを私たち人間は、真剣に考えなくてはならない。一方で、文部科学省所管の統計数理研究所の

日本人の長所について調査した結果によると、「一番多かったのは「親切」である。このことが、私たち日本人は、もともと人を思いやる気持ちをもっていると考えられる。東北大震災のときも、御嶽山噴火災害のときも人と人が助け合い、支え合った事実がある。だから、人類すべてが、地球上全ての「命」に対して思いやりの気持ちをもつこと。私たち日本人が世界へ発信していくことで、「平和」な世界を守れるはずだ。

6年（ ）

判断基準Bを全て満たす表現ができていた。

II B 状況

(6) 検証授業Ⅱの成果と課題 (○成果 ●課題)

「情報を読み解く」過程

- 南日本新聞社の記者から「記事の書き方」(5W1H・逆三角形の構成)や「社説の書き方」,「記事を書くときの思い」(相手意識や目的意識)などを直接話していただいたことにより,新聞を書くための課題意識を児童にもたせることができた。
- 教材文と社説の文章とを読み比べることによって,書き方の共通点を見付け,自分が新聞の社説を書くときに,事実と意見を区別して書く表現方法を生かすことができた。
- 情報から得た事実とそれに基づいた意見を書き分けておくことで新聞記事や社説を書くときの参考にすることができた。
- 事実と意見を書き分けたり,情報を比べたりする以外の情報の読み解き方についても整理する必要がある。

「自分の考えを明確にする」過程

- 見出し・リードは記事の書き方を意識して書くことができた。
- 読み手の視点で推敲することを確認し,推敲の仕方を示すことで理解が深まり,自分の文章を直せるようになった。
- 序論→本論→結論にそれぞれ事実と意見を構成することによって,全体の流れをつかむことができるようになった。
- 読み手としてもっと知りたいことなどを,より具体的に書くことや表現の工夫について,お互いにアドバイスができるようにする指導が不足していた。

「発信する」過程

- 社説と発表用原稿の違いを考えさせることで,自分の発表用原稿にはどんなことを書くか考えることができた。
- 児童にとって大勢の人の前で自分の意見を話すことができたことにより,相手意識や目的意識を単元を通して維持できたので,よかった。
- 友達との意見交流の仕方を工夫し,お互いの表現について助言し合えるような手立ての工夫が必要である。
- 発表原稿を読むだけになっていたので,聞き手に伝えるための「話すこと・聞くこと」における表現の工夫について手立てを工夫しなければならない。

今回の授業全体を通して,児童には様々な変化が見られた。日記や授業後の感想などから各自の学習後の様子を以下に示す。

《ポスターセッションの感想(日記から)》

- みんなが一生懸命聞いてくれたから,ポスターセッションをまたしたいです。
- 発表を見てくださった方から,「発表上手だったね。」と声を掛けてもらい,うれしかった。

《学習全体を通して》

- 自分の考えを事実・理由・意見の順で書いたので,今までよりも自分の考えを書けるようになった。
- 興味のある新聞記事を進んで読むようになった。
- 収集した情報により,自分の夢が変わったり自分の夢に対する関心が高くなったりした。

(7) 児童の表現の変容

6月の実態調査で実施した「活用」に関する問題に対する表現の検証後の変容を以下に示す。

「活用」に関する実態調査：「話すこと・聞くこと」における記述式の問題
 「活用」の問題の概要：資料を読み取った上で、質問したい内容を明確にして発表することができるかをみる問題

例
 分て年四%中
 なかいは十た学
 らせりなは四け二
 中すもあな中
 二。一の学は
 三。一の学は
 二。一の学は
 三。一の学は
 二。一の学は
 三。一の学は
 二。一の学は

A児 6月の記述

てういら満で生のが中
 いいるらが足すの2学
 なうのらととし。の4二
 いとの方いて中足%年
 のこがういる学度%生
 二。一の学は
 三。一の学は
 二。一の学は
 三。一の学は
 二。一の学は
 三。一の学は
 二。一の学は

A児 11月の記述

読み取った情報から、質問
 したい内容を考えることが
 できた。
 六月に比べると、質問の内
 容が明確になっている。

「活用」に関する実態調査：「書くこと」における記述式の問題
 「活用」の問題の概要：目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確に
 して書くことができるかどうかをみる問題

いよア六きののお
 てい宮六月に中返
 く日日本の書に事
 た時さん土書いて入
 さをん曜てはは
 いはの日くだるは
 がつかたさるは
 きご日曜日
 にう曜い
 者がが日

B児 6月の記述

くはささをん曜きお
 だがいははの日る返
 さきかがつか場事
 いをふぎごう曜はは
 事とおが日で訪
 にう書きい宮問
 使のく日日本が
 つ中く日土で
 てのた時さ

B児 11月の記述

目的を明確にして、返事の
 内容を先に伝えようとして
 いる。
 正しく敬語や語句が使わ
 れている。

「活用」に関する実態調査：「読むこと」における記述式の問題
 「活用」の問題の概要：複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをも
 つことができるかどうかをみる問題

に手手世第野
 入とは界三口
 フも世第位み
 て世界第八位本
 い界第九位井き
 る第十位高陽選
 から位で尚子選
 であ人三子手世
 す。内選選選は界

C児 6月の記述

なり上十
 い夕位以
 からム人の内
 であの選手
 す。変わ手
 。あ
 てあ
 いはて

C児 11月の記述

二つの記事の情報を関連付
 けるだけでなく、要約し、簡
 潔に書いている。データから
 読み解いたことを文章に書い
 ている。

(8) 検証授業後、学んだことを日常生活で生かしている様子

検証授業後の児童の様子として、学習したことが学校の職員との会話の中に出てきたり、これまでの学習を生かして新聞投稿をしたりするなどの変容が見られた（写真13、14）。



写真13 授業後の児童の様子

学習後、自分の変化や最近気になっていることについて、学習発表会で多くの質問をしてくれた養護教諭と話をした。児童は、今までよりも考えが深まったり、変化があったりしたことを話していた。新聞を活用したり、たくさんの人の前で発表したりしたことで、より自分の考えを深めることができたと思う。



写真14 新聞投稿欄に掲載された児童

学習したことを生かして、社説の文章を書いた。書いた社説は、新聞社への投稿文として再構成させ、新聞社に投稿し、掲載された。新聞に載ると地域の方々からの反響が大きい。家庭でも話題になり、何よりも書いた本人の達成感がある。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 学習指導要領や先行研究などを基に、「情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信する」学習過程を取り入れたことにより、児童が知識・技能を習得し、活用して課題を解決する単元を構成することができた。
- (2) 調べた事柄から、事実や理由を根拠として読み解き、段落を構成したり適切な表現を用いたりする活動を通して、児童が自分の考えを明確にし、文章を論理的に書けるようになった。
- (3) 「判断基準」を用いたことにより、教師が児童の書く活動に見通しをもち、表現力の向上を的確に評価することができた。
- (4) 児童に、語句マップや語句活用ノートを記録させることにより、意識が高まり、習得した語句を主体的に活用できるようになった。
- (5) 国語科学習の中だけでなく、日常生活においても、書くことによる情報発信をしたり、地域の高齢者や学校の職員と話をしたりする場面が見られるようになった。

2 今後の課題

- (1) 本研究において設定した「情報を読み解く」、「自分の考えを明確にする」、「発信する」過程について、家庭学習との関連を図る手立てを工夫していきたい。
- (2) 本研究で明らかにした新聞活用の効果を基に、文学的な文章を教材とする単元においても効果的な新聞の活用法を研究し、指導計画の作成を進めていきたい。
- (3) 本研究で児童の語句習得のために活用した「語句マップ」や「語句活用ノート」の更なる活用方法の研究に努めたい。
- (4) 本研究の成果と課題を踏まえて、小学校から中学校までの接続を考えた国語科における系統的な新聞活用を研究し、国語科学習の目標を達成できるように指導計画の作成に努めたい。

〈引用文献〉

- 1) 大村はま 著 『大村はま国語教室 第一巻』 1983年 筑摩書房
- 2) 倉澤栄吉 著 『解説 国語単元学習』 1993年 東洋館出版社
- 3) 鹿児島県
総合教育センター 『研究紀要 117号』 2012年

〈参考文献〉

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 平成20年 東洋館出版社
- 青木幹勇 著 『第三の書く 読むために書く 書くために読む』 1986年 国土社
- 田近洵一
井上尚美 編 『国語教育指導用語辞典〔第四版〕』 2009年 教育出版
- 岩間正則 著 『中学生の「記述力」を育てる6つの要素』 2010年 明治出版
- 松野孝雄 著 『論理的な記述力を伸ばす授業づくり
－言語活動のための授業メニュー15－』 2010年 明治図書
- 水戸部修治 著 『単元を貫く言語活動
授業づくり徹底解説&実践事例24』 2013年 明治図書
- 国語教育研究所 『論理的な記述力の開発に挑む
－「習得」から「活用」へ－』 2009年 明治図書
- 小原友行
高木まさき
平石隆敏 編 『はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用
－考え方から実践方法までの基礎知識－』 2013年 ミネルヴァ書房
- 齋藤孝 著 『新聞で学力を伸ばす 切り取る、書く、話す』 2010年 朝日新聞出版
- 町田守弘 著 『中学入試のために 新聞で鍛える国語力』 2010年 朝日新聞出版
- 小林秀一 著 『記者ハンドブック 第12版 新聞用字用語集』 2010年 共同通信社

長期研修者〔久保 昌意〕

担当所員〔山鹿 真人〕

【研究の概要】

本研究は、小学校段階において日常生活で生きて働く国語の能力を育成するために、新聞活用を通して、情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができるようにする国語科学習指導の在り方について、研究したものである。

具体的には、まず、各過程において指導すべき内容を整理し、新聞を活用した単元を貫く言語活動を設定し、単元全体の構成を工夫した。次に、語句を習得し、活用するために「語句マップ」・「語句活用ノート」を授業に取り入れた。さらに、評価の際に「判断基準」の考え方を活用し、児童の表現した文章を適切に評価できるように工夫した。

その結果、児童は、教材文と新聞を比べるなどして、自分の表現に活用できる情報を読み解き、論理的な文章構成や適切な表現を使って自分の考えを明確にし、高い目的意識や相手意識をもって、発信することができたことから、指導の手立てが有効であることが明らかになった。

【担当所員の所見】

新聞を学校教育に取り入れる取組は、これまでも様々な形で具体化が図られている。本研究は、このことについての目的や授業で活用する際の方法を明らかにしようとしたものである。

研究の大きな特色としては、新聞活用と単元を貫く言語活動とを結び付けて学習指導を構想したことが挙げられる。国語科学習指導上の大きな課題となっている「児童が読む目的を明確にもてないまま教科書を読んでいる」ことについて、今回の研究のように「新聞づくりに生かすために読む」という目的をもたせることと、それに基づく「情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信する」学習過程を位置付けることは、日常生活における課題解決を授業に取り入れる上で、効果的な手立てになると捉えている。

その他、新聞を授業に活用する際の課題である語彙の拡充についても、これまで岩南小学校で研究・実践を重ねてきた成果と課題を踏まえた具体的な方策を提示している。

日常生活で生きて働く国語の能力を育成する授業の在り方を追究する研究として、授業実践を通した一層の深化と研究の積極的な還元を期待する。

